



ネイホウ 你好

香港日本人学校小学部
香港校だより
2016年3月21日
平成27年度派遣 村上 大



早いもので、香港校に赴任して初めての年度末を迎えています。今年の香港は例年になく寒い日が続いており、1月下旬には59年ぶりの寒波で、香港最高峰の大帽山では-6℃まで気温が下がり、樹氷が見られたほどです。3月に入り、ようやく春らしくなってきましたが、90%以上の湿度と濃霧が立ち込めて曇天が続いています。今回のレポートは、今年度を振り返り、香港校の様子と共に、特色ある学校行事についてお伝えいたします。

匡智獅子會晨崗學校との交流会

6月、本校と隣接している現地校である、匡智獅子會晨崗學校（Hong Chi Lions Morning hill school）に出掛けました。匡智獅子會晨崗學校は、視覚や聴覚に障がいがあったり、発達遅延があったりすることで特別な教育支援を必要とする児童・生徒が学んでいる学校です。玄関に入って、まず圧倒されたのが、ガラスケースに飾られたトロフィーの数でした。サッカーボールを形取られたトロフィー、その他各種スポーツの表彰状もありました。「スポーツは国境を超える」とはよく言われることですが、人種・言語を問わずスポーツで心を通わすことができます。また、音楽についても同様のことが言えます。また、笑顔・微笑みもそうですね。みんな笑顔いっぱい、にこにこ迎えてくださり、一気に子どもたちの緊張がほぐれていくのを感じることができました。



香港日本人学校の6年生は、昨年度から音楽を通じた交流を行っています。晨崗學校の音楽会に招待いただき、まず皆さんの合唱と演奏を聞かせてもらいました。そして6年生も、ソプラノリコーダーで「ラバースコンチェルト」を演奏し、「つばさをください」、「Oh, Happy days」の2曲を合唱しました。演奏会の後は、自由休憩でした。教員が何も指図することなく自由な雰囲気の中で、両校の子どもたちは自然と話し掛け合っており、お互いに交流を深めました。晨崗學校の多くの子は、ソプラノリコーダーに興味を持ったようで、リコーダーを見せてあげたり、吹かせてあげたりしていました。

また、香港校のみんなが積極的に英語で自己紹介をして話し掛けていたのには、「さすがだなあ。」と感心しました。英語が通じないときには、広東語が得意な友達を呼んで通訳してもらいながら、自己紹介し合っていました。カビベをして押し相撲で勝負を挑んでいる姿も見られました。言葉は完全に通じなくても、身振り手振りで最大限の努力をして、心が通じ合うことを体感することができた交流でした。

「世界を視野に 夢へチャレンジ」を目指す香港日本人学校の6年生の児童にとって、この交流会は大変貴重な国際理解の場となりました。また、今後も交流の機会をもてたらと思っています。

仲間と共に、走った！叫んだ！ 香港校運動会

9月に行われた香港日本人学校小学部香港校、第50回の記念すべき運動会。台風又来襲で天候が危ぶまれた中で、子ども達の熱い思いが天に通じたのでしょうか。爽やかな運動会日和となり、みんなが力いっぱい頑張りました。

香港校は、香港島のハッピーバレーの丘陵地にあり、5階建ての学校の敷地内には、体育館と建物の屋上と3階に運動スペースはありますが、いわゆる運動場（グラウンド）はありません。屋上運動スペースは右の写真のように金網に囲まれており、一見すると鳥かごの中にいるような感じで、残念ながら運動環境面は恵まれているとはいえません。そこで、日頃は近隣のグラウンドを借りて、体育学習を行っています。また、運動会の練習も、30分ほどバスに乗って香港仔（アバディーン）運動場に出掛けます。そして、運動会当日は、都会のど真ん中、灣仔（ワンチャイ）運動場で行いました。



灣仔運動場は、運動場という名前ですが、400mトラックと大きな観客席を有する素晴らしいスタジアムです。鳥取でいうと、「県立布勢総合運動公園」陸上競技場を思い浮かべていただくと良いかと思います。高層ビルの立ち並ぶ灣仔の素晴らしいスタジアムで、鳥取での運動会と同じように、ラジオ体操から始まり、低学年は紅白対抗玉入れ・創作ダンス、中学年の台風の目・ソーラン節、そして高学年は、騎馬戦と組体操を行



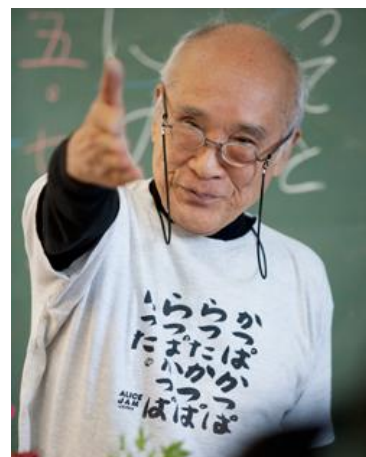
いました。

オリジナルの組体操は、オープニングからエンディングまで、ミュージカルのような流れで構成して行きました。全国各地から集まった先生方のアイデアを生かしながら、共に創り上げていく過程は、自分にとって新鮮で勉強になることがたくさんありました。鳥取に持ち帰って実践してみたいことの一つです。

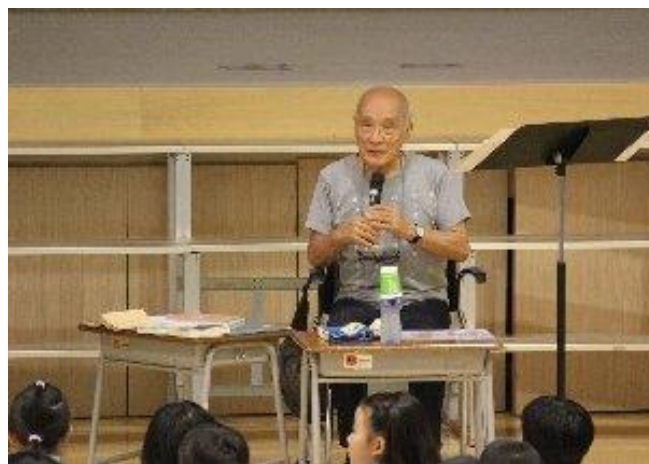


『みみをすます』～谷川俊太郎さん、賢作さん講演会～

香港校では、毎年PTA主催の文化講演会を行っています。昨年度は、元 U 20サッカー日本代表、横浜FC香港の福田健二選手と読売巨人軍前監督の原辰徳さんがおいでになりました。今年度は、谷川俊太郎さんと、音楽家の谷川賢作さんにおいでいただき、「『みみをすます』～詩の朗読と音楽のひとつとき～」という演題で講演会をしていただきました。谷川俊太郎さんといえば、絵本や詩が有名ですが、小学校国語の教科書にも多くの作品が掲載されています。「いのちフォーラム in 鳥取」で、昨年5月には鳥取にも講演にいらっしゃったそうです。



2時間あまりのステージは、親子ならではの息の合った軽快なトークの掛け合い、俊太郎さんの詩の朗読に合わせた息子の賢作さんのピアノ演奏が「すーっ」と心の中に染み込んでくるようで、とても贅沢で幸せなひとときでした。俊太郎さんご自身が作詞された「鉄腕アトム」のオープニングテーマを熱唱され、絵本の読み聞かせもありました。最後に、6年生の教科書に掲載されている詩「生きる」を朗読されました。講演会后、6年生児童は、「黙読ではなく、声に出してみると、言葉のリズムって面白いなあと思いました。」と、音読の良さを再確認している子がいました。また、谷川俊太郎と宮澤賢治の詩の世界には、何かつながりがありそうだと読み取っている子もいました。人間も動物も植物も、みな互いに心を通い合うような平和な社会が宮澤賢治の求めた理想郷＝「イーハトーブ」だったようですが、谷川さんの詩の世界も、ほのぼのとした中に人間の温かさ、自然と共に生きていくことの大切さを教えらるる作品がたくさんあります。講演中に谷川さんも宮澤賢治と同様に菜食主義を貫いておられるということもお聞きしましたが、そこにも宮澤賢治の世界観と重なる印象を受けたヒントが隠されているように思いました。次回の講演会にはどなたがお見えになるのか、今から楽しみにしています。



年度の当初は、初めての体験の連続で、少し身構えながら始まったように思います。しかし、全国から集まって来られた2年次の先輩派遣教員の方々温かく助言してくださり、多くのことを学べた貴重な1年間でした。在外教育施設といっても、文部科学省学習指導要領に従って日本に住む児童・生徒と変わらない教育を行っていくことを目的としているので、鳥取県で行っている学習内容と大きく変わることはありませんが、香港という土地ならではの特色ある活動や行事が、まだまだたくさんあります。今後も、少しずつご紹介していけたらと思います。